



知識集約型社会を支える人材育成事業
令和5年度 成果発信シンポジウム 2024年2月27日 (火)



新潟大学 全学分野横断創生プログラム 令和5年度 成果概要

NICE Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program

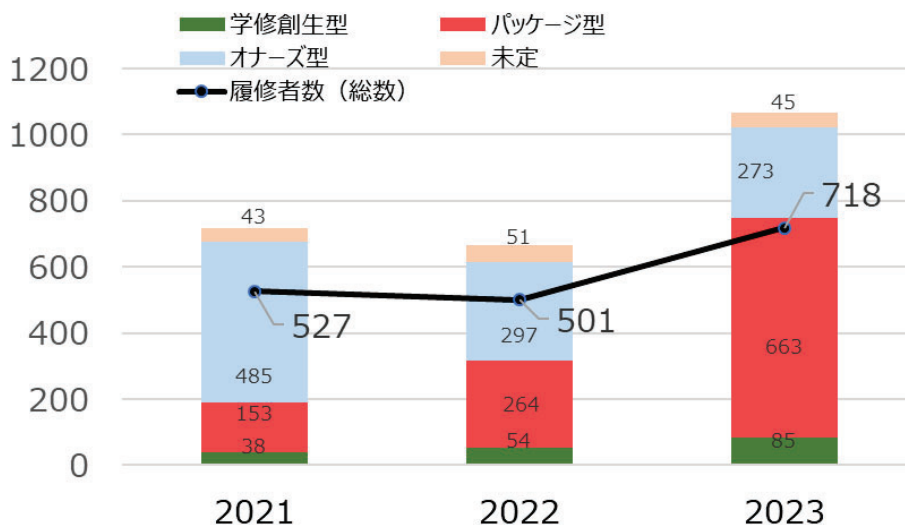


事業計画の進捗 (KPI)



項目	年度	内容	達成状況
「マイナー学修パッケージ」 履修完了者数 (分野横断デザイン、リフレクション修了者 120人、パッケージ修了者120人)	令和6年度	240人	KPI達成に向けた現況としてのマイナー・プログラム履修者数： R3年度 527人、R4年度 501人、 R5年度 718人
(参考：令和4年度履修完了者数 パッケージ型51名、オナーズ型66名、合計111名)			
「分野横断デザイン」履修者数	令和2年度 令和3年度 令和4年度 令和5年度 令和6年度	準備・周知 120人 160人 200人 240人	実績 55人 実績 80人 (1学期49人、2学期 31人) 実績 294人 (1学期221人、2学期暫定73人)
「マイナー学修パッケージ」提供数	令和2年度 令和3年度 令和4年度 令和5年度 令和6年度	準備 18 24 30 36	実績 24 実績 42 実績 44 予定 50
「分野横断リフレクション」履修者数	令和6年度	120人	(未定 (令和6年度に確定))
「分野横断デザイン」履修者の 卒業時平均GPA	令和6年度	3.4	(未定 (令和6年度に確定))
「分野横断リフレクション」受講者の 4年間の学びの満足度	令和6年度	80%	(未定 (令和6年度に確定))

マイナープログラム履修登録者数および
履修者数（総数）の推移



2023年 一年:229人 二年:228人 三年:166人 四年:95人
 2027年 入学者のうち733人以上が履修（中期計画）

3



集大成科目「分野横断リフレクション」

■ 2023年第1学期「分野横断リフレクション」の概要

教員 4 名によるチームティーチングで実施
 履修申請者 15 名、受講者 13 名、単位取得者 10 名
 （単位取得者の内、1 名がマイナー未履修者）

A日程 + B日程選択履修方式（A・B日程ともに2限～5限）

- ① A日程は8月7日（月） + B日程は9月26日（火）
- ② A日程は8月7日（月） + B日程は9月28日（木）
- ③ A日程は8月8日（火） + B日程は9月26日（火）
- ④ A日程は8月8日（火） + B日程は9月28日（木）

学生が受講できる機会を確保





集大成科目「分野横断リフレクション」



■ 2023年度第1学期「分野横断リフレクション」の授業内容

1. 確定版マイナー学修デザイン作成
2. **NICEカリキュラムマップ作成**
(授業実施時はセルフカリキュラムマップとしていた)
3. 確定版マイナー学修デザインとNICEカリキュラムを用いた学生プレゼンテーション
4. リフレクションレポート (授業修了後の事後課題)

新潟大学 教育基盤機構



2023年度第1学期「分野横断リフレクション」セルフカリキュラムマップ

1年生	2年生	3年生	4年生
マイナーに関する科目名 「●●●●」 キーワード： 学修成果： 学修成果の根拠：			メジャーに関する科目名 「●●●●」 学修成果： 学修成果の根拠：
在籍番号： 所属学部： 学 年： 氏 名：			
メジャープログラム名称： (1) どのような課題・テーマで学修・研究に取り組んできたか (2) 卒業論文へのマイナーの影響 (対象者のみ)			
マイナー名称： ねらいと概要： (1) マイナー学修のキーワード (2) マイナーの到達目標 (3) メジャーとマイナーがけあわせの到達目標			
正課外活動			

2023年度第1学期「分野横断リフレクション」セルフカリキュラムマップ

1年生	2年生	3年生	4年生
<p>マイナーに関する科目名 「教育教育としての教育学入門」 キーワード：④教育 学修成果：世界各国の教育・現在の日本の教育問題 学修成果の根拠：各国の教育をふりかえり、今後の日本の教育の在り方を提案したレポートを作成した</p> <p>マイナーに関する科目名 「新設大学サマー・プログラム Collaborative Online Overseas Learning (NUSP-COOL)」 キーワード：③国際 学修成果：異文化理解・外国における情報技術の側面・SDGsとのつながり 学修成果の根拠：SDGsの達成につながる情報技術についてのプレゼンテーションや海外の大学生とのグループワーク</p> <p>マイナーに関する科目名 「国際テクノロジー・グループワーク・インテンシブA」 キーワード：③国際 学修成果：異文化理解・英語が母国語ではない大学生とのグループワーク・プレゼンテーション 学修成果の根拠：お互いの文化を組み合わせ新たなアイデアを海外の大学生と考える、プレゼンテーションを行った</p>	<p>マイナーに関する科目名 「ジェンダー論」 キーワード：④社会 学修成果：ジェンダーに対する興味・関心・社会におけるジェンダー 学修成果の根拠：ジェンダーに関するニュースについて考えたり、個人のジェンダー観についてディスカッションしたり、ディスカッションを通して学んだことをレポートにまとめた</p> <p>マイナーに関する科目名 「国際共生：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーション」 キーワード：③国際 学修成果：日系企業の海外進出・異文化理解 学修成果の根拠：海外の大学生とグループワークを行い、日系企業が海外進出をする時にふまなければならない文化について議論し、プレゼンテーションを行った</p> <p>マイナーに関する科目名 「前造プロジェクト基礎」 キーワード：④国際 学修成果：データサイエンス 学修成果の根拠：データサイエンスの大きな流れ、データ分析を行うツールを使って実際にデータを分析した</p> <p>マイナーに関する科目名 「プログラミング基礎Ⅰ・Ⅱ」 キーワード：④教育 学修成果：Pythonでプログラムを記述できるようになり、データサイエンスの大きな流れを学び、実際にデータを扱った分析をおこなった</p>	<p>マイナーに関する科目名 「経営学入門」 キーワード：①起業、②経営 学修成果：経営体制・資源・ビジネスモデル・経営計画 学修成果の根拠：経営体制の違いを述べたレポートの作成や、決算書や経営計画から読み取れることについてのレポートを作成した</p> <p>マイナーに関する科目名 「ビジネスベンチャーリング入門」 キーワード：①起業、②経営 学修成果：ビジネスモデル 学修成果の根拠：起業の経験談を聴き、起業までの流れについてを知ることができた</p> <p>マイナーに関する科目名 「教育・学校心理学」 キーワード：④教育 学修成果：教育現場においての子どもの扱い方 学修成果の根拠：実際の教育の場面において、どのような扱い方が適しているのかレポート形式で考えた</p> <p>マイナーに関する科目名 「医療ボランティア論」 キーワード：④社会 学修成果：医療ボランティア論</p>	<p>メジャープログラム名称：知能情報システムプログラム</p> <p>(1) どのような課題・テーマで学修・研究に取り組んできたか ソフトウェアに関する知識や技術を学び、実際に手を動かし実験を行ったこと、ソフトウェアを動かすのに必要なハードウェアの知識や技術を身につけてきた。さらに、技術面だけでなく、どのようにICTが活用されているのか、どのような場面で活用されているのかなど、技術の活用事例についても学んだ。</p> <p>(2) 卒業論文へのマイナーの影響（対象者のみ）</p> <p>マイナー名称：ICTを活用した開発上国の教育システム</p> <p>ねらいと概要：日本の外にも目を向けたこと、私は、日本では考えられないことが世界では当たり前となっている現状に違和感を覚えた。特に、開発途上国などの貧しい国で、平等に教育を受けられない現状に衝撃を受けた。世界中の子供たちが、教育を受けられないように、誰もが心安全に生きられる世界にしたいと考えている。具体的には、教育現場において、教育者や進路指導という現状でも子どもが教育を受けられるようなICTを活用したシステムを開発し、起業してビジネスを展開したいと考えている。起業が、女性などの社会的弱者が働きやすい環境を、彼らに提供することにつながるかと考えるからである。</p> <p>これを実現するために、メジャーを通して、ICTの活用方法や活用場面を学んだ。開発に必要な専門的な知識や技術を身につけた。さらに、メジャーを通して、開発途上国の課題や教育事情、教育の重要性を学ぶ。ならば、教育の現状や課題を把握しておこなければ、課題解決のソリューションを考えることができるからである。また、起業や経営についての知識を学ぶだけでなく、経験談についても知っておくことで、具体的なイメージをしやすくなるかと考えるからである。</p> <p>メジャーでは、課題を解決するためのスキルを習得できるような知識やスキルを身につけて、メジャーでは、メジャーで身につけた知識やスキルを活用するために、教育分野や国際関係の知識を学ぶこと、起業や経営の知識を身につけることをねらいとする。</p> <p>(1) マイナー学習のキーワード ①起業、②経営、③国際、④社会</p> <p>(2) マイナーの到達目標 ①-1 起業や経営に必要な知識、ロードマップを説明することができる ①-2 アンブレラプレジデントシップを身につける ②-1 世界各国（先進国、開発途上国）の教育について知識を深め、教育の現状・重要性を説明できる ②-2 世界各領域（主に開発途上国）の現状や課題を説明できる ②-3 日本語以外のグループワークに積極的に参加し、異文化理解を深める ③-3 英語で積極的にコミュニケーションを取ることができる ④-1 ジェンダーに焦点を当てた社会的弱者の労働環境を説明できる</p> <p>(3) メジャーとマイナーが合わせた到達目標 1. ICT技術が教育現場や開発途上国でどのように活用されているのかという現状を説明できる 2. 起業の準備（主に開発途上国）の現状や課題を説明できる 3. 市場調査やマーケティングの調査を進め、ビジネスプラン・モデルを立てる</p>
<p>正課外活動</p> <p>「ビジネスコンテスト」 学修成果：課題解決力・プレゼンテーションスキル 学修成果の根拠：日常生活において、どのような課題があり、それを解決するにはどのような手段を使えばいいのかを考え、プレゼンをおこなった</p> <p>「起業サロンの参加」 学修成果：開発途上国での起業のビジネスモデル・その他重要な要素 学修成果の根拠：開発途上国（フィリピン）で実際に起業した人のお話を聞いた</p> <p>「プログラミングスクールでのアルバイト」 学修成果：コミュニケーション力・子どもへの扱い方・現在の教育事情 学修成果の根拠：アルバイト前より子どもに合った態度で接することができるようになった</p>			

在籍番号：■■■■
所属学部：工学部
学 年：3年
氏 名：■■■■

2023年度第1学期「分野横断リフレクション」セルフカリキュラムマップ

1年生	2年生	3年生	4年生
<p>「日本語教育I-B」 キーワード：①社会的弱者 学修成果：ネイティブと非ネイティブ間の日本語の捉え方のギャップ 学修成果の根拠：特殊な読み方を学ぶ日本語に関するグループ発表、言語学習に多言語を活用することについてのレポート</p> <p>「日本国憲法」 キーワード：①社会的弱者 学修成果：女性にかかると負担、男女平等に対する観点の獲得 学修成果の根拠：夫婦別姓に関するレポート</p>	<p>「司法・犯罪心理学」 学修成果：少年の非行を抑制するための理論・指導 学修成果の根拠：非行少年に関する小レポート</p> <p>「医療と福祉」 キーワード：③福祉 学修成果：福祉制度の網羅的な学習、現代における障がい・障がい者の捉え方の学習 学修成果の根拠：各制度の学習、「障害者の権利は保証されているか」(レポート)</p> <p>「発達心理学」 学修成果：能力と遺伝・環境の関係、「学習」とは学修成果の根拠：毎週事前課題</p>	<p>「社会福祉法則」 キーワード：③福祉 学修成果：高齢者・障がい者・児童に対する福祉制度の知識 学修成果の根拠：法制度の理解度テスト</p> <p>メジャーに関する科目名 「福祉心理学」 学修成果：子どもや高齢者に対する福祉制度の理解、脳機能の変化 学修成果の根拠：毎週事前課題</p>	<p>「特殊講義（英語音学）」 キーワード：②少年非行 学修成果：「少年」の定義、非行少年に対する刑罰と改正 学修成果の根拠：少年法を参考にしている講義、内容理解</p>
<p>正課外活動</p>			

在籍番号：■■■■
所属学部：人文学部
学 年：4年
氏 名：■■■■

メジャープログラム名称：心理・人間学プログラム

(1) どのような課題・テーマで学修・研究に取り組んできたか
「集中力に関するメタ認知と読解力の関連について」
集中力や読解力の測定と、それに対するメタ認知と実際の測定結果の関連性の探究
・公認心理師として必要となる知識の獲得、知識の活用方法の探究

(2) 卒業論文へのマイナーの影響（対象者のみ）
各個人の能力差や自分自身に対する理解など、人の違いや個性に関連するテーマに興味を持つようになった。

マイナー名称：社会的弱者に対する領域横断的な心理サポート実践のために

ねらいと概要：科長は、主専攻である心理学で得た知識を活用し、特に社会的弱者に対する心理的ケア・支援の提供を行いたいと考えている。具体的職業としてはスクールカウンセラーやソーシャルワーカー等が理想である。そしてこれらの職業で関わる人々は単一の問題ではなく、多面的・複合的な問題を抱えていることが多くという状況をふまえて、各領域で専門的な知識のみならずより踏み込んだ支援の提供が可能となるため、マイナー履修では職業領域や支援対象者に関係する専門的知識を獲得することを目標とする。ケアの対象者として考えているのは、児童（特に非行少年や外国人労働者の子どもなど）、貧困状態の方などである。

したがって、教育現場の現状、外国人に対する日本語教育、少年非行、性、福祉などに係る知識を習得し、他職種との連携を図りながらより包括的なケアを提供できる人材となることを目的とする。

(1) マイナー学習のキーワード
①社会的弱者 ②少年非行 ③福祉 ④教育

(2) マイナーの到達目標
社会的弱者：日本で生活する外国人や性に関する知識を習得し「マイノリティ」の方を含め、「社会的弱者」と呼ばれる子どもや障がい者、高齢者や収入が不十分な（収入がない）人々などが抱える問題や障壁をさまざまな視点から理解・予測できる
少年非行：非行少年に関する法制度と刑罰、施設等の知識を習得する
福祉：福祉制度を理解し、福祉を提供できる福祉制度の知識を習得する
現代において行われている支援の現状を理解する
教育：教師、家族、友人といった人間関係や学校現場の在り方や児童の発達や価値観形成、学力等に与える影響を理解する/子どもの発達特性に関する知識を習得する
全体：社会的弱者を指導する側の現状や現在の法制度の運用等に対する十分な理解がある

(3) メジャーとマイナーが合わせた到達目標
社会的弱者：相談者が抱える問題の本質を理解し、アセスメント等の際のより的確な状況理解と他職種との連携、支援提供ができる
少年非行：非行少年に対する刑罰や支援の現状について理解し、支援を必要としている少年の社会的状況を理解した上で支援を提供できる
福祉：福利の福祉制度を理解し、有効な制度活用をアドバイスできる
教育：児童の発達状況や学校・家庭における人間関係などの複合的視点から学習や学校に関する問題の原因を推察し、適切なアドバイスができる
全体：マイナー学習で得た知識を活用し、心理職として他職種からアプローチしている支援者との円滑な連携を図ることができる/心理分野で得た知識を用いた心理検査やケアだけでなく、被支援者それぞれの環境や特性に合わせたより現実的な支援を考え、並行して提案することができる



■ 「分野横断リフレクション」とNICEプログラムの可能性

①政策上で謳われる「学生自身による学修成果の可視化」の実現

明確な問題意識と学修デザインに基づいたリフレクション
が大学の学びを学生自らの言葉で説明できるようになる。
→従来のポートフォリオシステムの振り返りからの発展可能性

②「学位プログラム」制の中でのメジャー・マイナー制 大綱化以後の一般・教養・共通教育のより良いあり方の提示

